

# 財政再建が国を滅（亡）ぼす

デフレは国民能力の無駄使い（発揮できない）。デフレは絶対ダメ

（デフレは経済を破壊し、財政を破壊する）

2012/04/27 公認会計士・税理士 藤井和治

## ケインズが見つけたものの理解

生産量は買ってくれる量によって決まる。 $(Y=C+I)$

日本経済を良くするための理解すべき要点

（まる覚えでなく、なるほどと理解すること）

### ① マクロ経済とミクロ経済の違いを理解すること

ミクロ経済（個々人、会社）は理解しやすいので、すぐ納得してしまいやすい

↓

国は借金がいっぱい

↓

財政再建が必要

収入増をはかる → 増税する

支出を抑える → 赤字国債 4 兆円の発行を抑える

### ② マクロ経済をよくする（ $\Sigma$ ミクロ経済）ための理解の原点

他人の（費用）支出 → 私の（収益）収入 }  $\Leftrightarrow$  { 全国民の支出の合計は全国民の収入の合計に等しい  
（私の支出） （他人の収入） } { 全国民の貯蓄の合計は全国民の借金の合計に等しい

収益とは、他人へのサービス（役務）の提供であり、能力の発揮の場である

費用支出とは、他人の能力を使って何かをしてもらうことである

マクロ経済とは、社会全体の経済の状態

ミクロ経済（個別経済）とは、1人1人の個人・会社の状態であり、 $\Sigma$ ミクロ経済 = マクロ経済という関係にある  
だからミクロ経済（個々人）が良くなるように、各々努力するだけで全体もよくなるという考え方が出てくる

= 基本的には正しいが、合成の誤謬がある

▲ 全員が貯蓄を最大にするよう行動すると、誰も貯蓄出来ない

### ③ ケインズが見つけたこと。

人がどれだけ収入を得られるかは、その人の能力を最大値にして、どれだけ能力を発揮したかによって決まる  
（どれだけ使ってもらうか（有効需要）の大きさに決まる）

有効需要  $(C+I+G+E-I) \Rightarrow$  注文がある。売れる、使ってもらえる、能力が発揮できる。

C 消費 …… その時使ってしまう、後に残らない…… 快適な生活に通じる

I 投資 …… その時使うが後で収益を生むもの

### ④ 個人は、稼いだ所得を今使ってしまう（消費）だけでなく、将来のために貯蓄しようとする（稼ぐが使わない）

そこにミクロ経済とマクロ経済のソゴ（齟齬）行き違いが生じる

ここの理解が一番大事であり

国民は所得のうち、全部を消費せず、将来に備え貯蓄をしようとする（これがデフレギャップの発生原因）

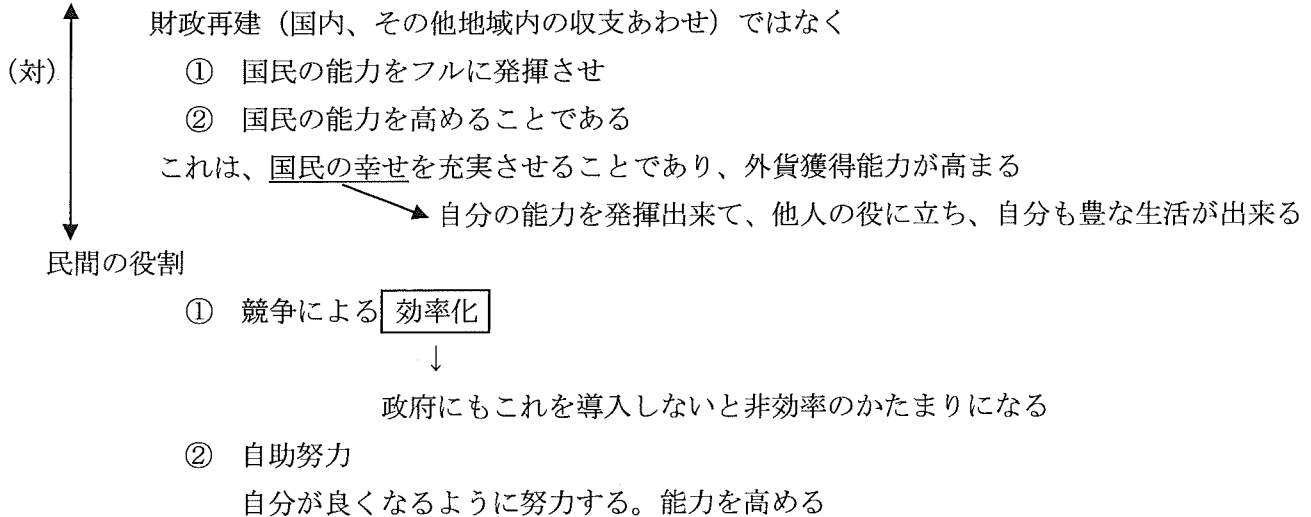
投資は将来の為に今、使うことだから、この貯蓄と投資が見合えば、デフレギャップは発生せず、経済は順調に発展する

## 日本にはお金がないとの誤解

日本は世界一の債権国（外貨を世界一もっている）

今の借金は政府が国民にした円建ての赤字国債であり、これは本来あってはならない（世代間の借金のおしつけ）

☆ 貨幣発行権のある政府の一番大事な役割は



① 国民の能力をフルに発揮させる為には（デフレギャップを解消し、皆が能力を発揮する）

1. 財政政策 …… 積極的に公共投資、研究、能力開発を進め、内需の起爆剤となる
2. 金融政策 …… デフレによる円高の阻止、投資、消費の誘発

② 国民の能力を高める（強く、能力高く）→ 優しくなれる（平和）

1. 投資の必要性（貯蓄（デフレギャップになる原因）を積極的に投資（未来のよいことに今、使う））
2. 教育
3. 研究開発

● 政府（官僚）による弊害の認識

官は非効率

部分を見て全体を見ない（省益あって国益なし）

赤字国債は発行すべきでない → 政府支出の無駄の廃除、効率化

貨幣発行でインフレにすべきである



不足分は政府紙幣の発行（インフレ）により、その世代が負担すべきである

その世代が共通経費として使ってしまった分（予算総額）からその世代が負担した額（税金）を差し引いた不足分

① 政府支出を国民に負担させるには、2つの方法があることへの理解

1. 租税
2. 政府紙幣の発行

② 政府支出は、その年の税金（租税収入）の範囲で行われなければならない（財政単年度主義）

赤字国債は発行すべきでなく、デフレギャップ解消の為、需要をつくるにはどうしたらよいか

⇒ 答えは、誰かが借金をして、国民の貯蓄に見合う（金融政策、財政政策によって）投資的支出を増やせばよい

不況期、デフレ期は（研究開発、教育、etc）貨幣発行権のある政府中心になって



波及効果で民間消費投資が高まり、需要超過（インフレ）になるときは、財政支出を低くし、調整する

☆ 赤字国債は本来発行すべきものではない（ことへの理解）

政府紙幣を発行すべきである（理解のため）

- ・ 政府（国民1人1人の観念的集合体）の支出は国民1人1人に分割、割当てられる
- 政府支出の税金（国民が負担した金額）＝赤字額

赤字額は、政府支出した その時の国民 が負担すべきであり、国民負担する方法は、税（増税）と政府紙幣の発行（インフレ）がある

☆ 赤字国債の発行は、次世代に負担をおしつけるものであり、赤字国債分をその時の世代が負担する為には、政府紙幣を発行しなければならない

後世に赤字国債（1000兆円 GDPの2倍）をおしつけ、それを増税で回収しようとするのは、後世（若い世代）にムゴすぎる

政府紙幣の発行の効果

① 国民から税金を取ると同じだが、税が国民から所得の移転によるのに対し、政府紙幣の発行は、直接収入を得ることとなる

② 政府発行の国債を日銀が直接引受けすることは、政府紙幣の発行と同じ効果がある

③ 直接引受けでなく、政府国債を民間が引受けし、日銀がそれを買っても同じである（その方法がとれる。原理を理解するには政府紙幣が分かりやすい）

## 本質を理解すること

- なぜそうなるのか、の理解することが大事である。

① 私のヨットの例	大学4年間A級ディンギー 3か月の練習で国体フィン1着、3着
② 私の税理士受験歴	S44年9月3日 長女誕生 一念発起 同年10月より通信教育 勤務のまま 休み 土(半日)、日 S45年8月 4科目受験 3科目合格(財、法、所) 5科目合格(0人) 4科目合格(9人) 3科目合格(90人) 全受験者 3万人
私の公認会計士受験歴	S46年11月10日 離職 同年11月15日 基礎教室開始(3か月終了) S47年7月試験・・・合格

私は昔から何でも分かって、理解しようとする性向があって、まる覚えは苦手としてきた(語学、芸能人、人の名前)

- 人が幸せを感じられるのはいつか 人の幸せとは? 人はどうしたら幸せになれる?

お互いさま

1人だけ幸せになることはできない

人が生きていてよかったと感じられるのは、自分の能力が発揮でき、他人の役に立って感謝された時、自分も生きていてよかったんだと実感できる。

- 人は同じ話を聞いても、自分の能力に応じた分しか理解できない

自分の能力を高めておくことが大切(野狐禅(やこぜん))に陥る危険性に気をつける

- 人は自分の都合のよいように(理解しやすいように)理解する

### 歴史的な証明

- ① 第2次世界大戦後、日本、ドイツとイギリスの比較(平成23年2月12日 日本経済新聞の記事参照)

戦争に勝ったイギリス・・・英国病で停滞

戦争に負けた日本、ドイツ・・・大発展で世界2位・3位の経済大国

- ② ドイツの例

第1次世界大戦に敗れ・・・金なし

世界大不況(1929年)の最中・・・失業者いっぱい

1933年に組閣したヒットラーの経済政策

全国民の能力のフル発揮(内国通貨マルクをまわす)

アウトバーンを造り、研究開発をすすめ、たった6年間でドイツの国力は大きく向上

1933年 ポーランド進攻

本当の貨幣(外貨)がなくても、国民の能力のフル発揮は、地域通貨の使い方であることの証明である